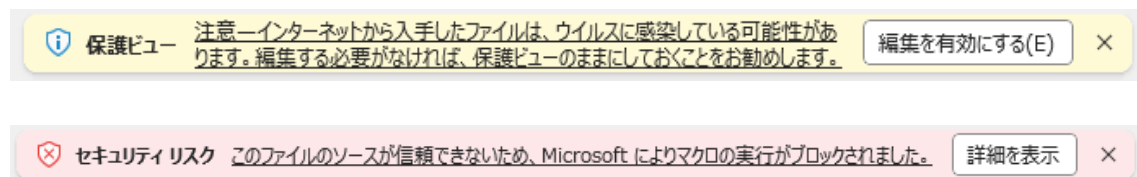


ダウンロードしたマクロ付き Excel ファイルを安全に利用する方法

対象：Windows 11 版 Excel（Microsoft 365） **前提：**ファイルの入手元とマクロの内容が安全だと確認できている場合

エクセルにはウイルスや悪意のあるマクロなどが含まれているファイルから守るためにセキュリティ制限があります。

◆脅威が潜んでいる恐れのあるマクロ機能付きエクセルファイルを開くと、保護ビューという黄色いメッセージバーが表示されたり、セキュリティリスクという赤いメッセージバーが表示され編集やマクロなどが制限されます。



保護ビューのメッセージバー

セキュリティリスクのメッセージバー

そのファイルが確実に安全であると言えるなら、その制限を解除できます。

表示されている赤い警告は、インターネットから取得したファイルに付く安全情報を Excel が検出し、マクロを自動的に止めている状態です。黄色い「保護ビュー」の警告は、ファイルを読み取り専用に近い状態で開いていることを示します。黄色いバーの「編集を有効にする」だけでは、マクロのブロックは解除されないことがあります。

重要：「請求書を見るにはマクロを有効にしてください」など、開くことを急かす不審な案内がある場合は解除しないでください。送信者、配布元、ファイル名、拡張子（通常は .xlsm または .xlsb）を確認し、可能ならウイルス対策ソフトで検査します。「すべてのマクロを有効にする」という全体設定への変更は推奨しません。

図解：おすすめの順序

以下に「方法 1」と「方法 2」を示します。概略は次の通りです。

① 安全性を確認

入手元・送信者・用途を確認



方法 1

② Excel を完全に閉じる

対象ブックを閉じる



③ エクスプローラーでブロック解除

右クリック → プロパティ → 全般 → 許可する／ブロックの解除



④ 開き直して編集を有効化

必要なら [編集を有効にする] → [コンテンツの有効化]



方法 2

⑤ まだだめなら信頼できる場所

専用フォルダーを作り、その中だけを信頼

方法 1：ファイル単体のブロックを解除する（最初に試す）

1. **Excel を閉じます。** 対象ファイルが開いている場合は、先に保存して閉じてください。
2. キーボードの **Windows キー+E** を押し、エクスプローラーを開きます。
3. [ダウンロード] など、対象ファイルが保存されているフォルダーを開きます。
4. 対象の Excel ファイルを右クリックし、[プロパティ] を選びます。Windows 11 で見つからない場合は、[その他のオプションを確認] の中も確認します。
5. [全般] タブの下部にある「セキュリティ」を探し、[許可する] または [ブロックの解除] にチェックを入れます。
6. [適用] → [OK] の順に選びます。
7. 同じファイルを開き直します。黄色い保護ビューが出たら [編集を有効にする] を選びます。
8. さらにマクロの警告が出た場合は、内容が安全だと確認済みであることを再確認して、[コンテンツの有効化] を選びます。

成功の目安： ファイルを開き直したとき、赤い「Microsoft によりマクロの実行がブロックされました」というバーが消え、必要なボタンや自動処理が動作します。

[許可する] が表示されない、または解除しても直らない場合

- **ZIP ファイルから取り出した場合：** 元の ZIP 自体を右クリックして [プロパティ] → [許可する／ブロックの解除] → [適用] を行い、その後に新しいフォルダーへ展開し直します。すでに展開したファイルでは情報が引き継がれている場合があります。
- **メール添付やクラウドから直接開いた場合：** いったん PC 内の通常のフォルダーへ保存してから、方法 1 を行います。一時フォルダーからは信頼済みにできないことがあります。
- **OneDrive やネットワーク上の場合：** まずローカルの専用フォルダーにコピーして試します。会社の共有場所では組織のポリシーが優先される場合があります。

- **会社・学校の PC の場合**：設定が管理者によって固定されている可能性があります。その場合は自分で全体設定を緩めず、IT 管理者にファイル名、入手元、表示メッセージを伝えて許可を依頼します。

方法 2：専用の「信頼できる場所」を使う

安全確認済みのマクロファイルを何度も使う場合に限り、専用フォルダーを作る方法があります。**ダウンロードフォルダー全体やデスクトップ全体を信頼できる場所にしないでください。**

1. 例として、ドキュメント内に「安全確認済みマクロ」などの専用フォルダーを作ります。
2. Excel を起動し、[ファイル] → [オプション] を選びます。
3. [セキュリティ センター] → [セキュリティ センターの設定] を選びます。
4. 左側の [信頼できる場所] → [新しい場所の追加] → [参照] を選び、専用フォルダーを指定します。
5. [OK] ですべての画面を閉じ、対象ファイルをその専用フォルダーへ移動して開き直します。

避けるべき設定

- [VBA マクロを有効にする／すべてのマクロを有効にする] を常用する。
- ダウンロードフォルダー、デスクトップ、メール添付の保存先全体を信頼する。
- 入手元が不明なファイルで [編集を有効にする] や [コンテンツの有効化] を押す。
- 警告を消す目的だけでウイルス対策機能を停止する。

公式情報

- [Microsoft 365 ファイルでマクロを有効または無効にする](#)
- [Microsoft Office で信頼できる場所を追加、削除、変更する](#)
- [Excel のマクロのセキュリティ設定を変更する](#)